



外出先での避難行動を確認しましょう

大地震などの大災害はいつどこで発災するか分かりません。自宅や職場といったなじみのある場所のほか、旅行先など見知らぬ土地でも被害に遭う可能性があります。その状況によってどのように行動すれば良いか紹介します。

オフィス

キャビネットの転倒や飛散するガラスに注意しながら、ものが落ちてこないような場所に身を隠しましょう。余震や停電でエレベーターが停止する恐れがあるので階段を使いましょう。

繁華街

人混みで最も怖いのがパニックになることです。落下物から身を守り、ビルの倒壊にも注意しながら公園など安全な場所へ移動しましょう。人の多い場所こそ、冷静な行動が求められます。

学校

教室では、窓から離れて机の下に隠れ、脚を持って揺れが収まるまで待機しましょう。廊下ではすぐに窓から離れ、階段では転げ落ちないように手すりにつかまりましょう。揺れが収まったら、先生・教師の指示に従って行動しましょう。

百貨店・スーパー・コンビニ

商品の散乱やショーケースの破損などに注意して、階段の踊り場や柱の近くへ避難しましょう。コンビニでは買い物かごなどをかぶり、身を守りましょう。

劇場・ホール・スタジアム

大勢の人が集まる施設では、あわてて非常口や階段に駆け寄らず、館内放送や係員の指示に従いましょう。

山間地

土砂崩れで生き埋めになるおそれがあるので、速やかに斜面や崖から離れましょう。余震や降雨などで土砂災害の危険が高まるので注意しましょう。

エレベーター

エレベーターの中で揺れを感じたら、すべての階のボタンを押し、止まった階で降ります。閉じ込められたらインターホンで連絡しましょう。

駅

ホームから転落しないように近くの柱に移動しましょう。地下鉄の場合、はやく地上に出ようとしてパニックになる場合もあります。決して線路には降りず、駅員の指示に従いましょう。

電車内

強い揺れを感知すると電車は緊急停止するため、人に衝突したり倒れる危険があります。カバンなどで頭を守り低い姿勢を保つこと、満員電車ではつり革などにしっかり掴まりましょう。

車

急ブレーキをして衝突しないようにハザードランプを点灯して徐々に減速。道路左側に停めてエンジンを切り、揺れが収まるまで待機しましょう。避難する場合は、緊急車両通行時など車を移動できるように、キーは付けたままでドアロックをせず、連絡先メモを残し、貴重品や車検証を持って車から避難しましょう。

橋梁・高架

橋梁や高架はそれぞれ揺れが異なり、古い橋は損傷の危険があります。橋を渡り終える付近なら減速して渡り、その他は徐々に減速して左側に停車して避難しましょう。

トンネル

天井や壁面崩壊の危険性があるので、前方出口が見渡せれば減速して通過しましょう。長いトンネル内の場合は、左側に停めてキーを付けたまま非常口から脱出しましょう。



■問い合わせ■ 消防本部 ☎54-0119

第46回茨城県消防救助技術大会に出場

消防救助技術大会とは？

「消防の精鋭部隊」とされる救助隊が、県内の24消防本部から集結し、各種目でタイムを競う大会です。県大会で上位に入賞したチームは、関東地区指導会に出場します。関東地区指導会での上位チームが全国消防救助技術大会へ出場します。個人種目に分類されるほふく救出、はしご登はん、ロープ応用登はん、ロープブリッジ渡過は、県内5ブロックに分かれて選考大会を開催し、1位のチームが全国消防救助技術大会へ出場します。

6月11日、茨城県立消防学校で第46回茨城県消防救助技術大会が開催されました。引揚救助、ロープブリッジ救出の種目に1チームずつ出場し、結果は、引揚救助で第2位となり関東地区指導者会に出場が決定。ロープブリッジ救出では努力賞を受賞しました。

また、7月2日には日立市消防本部で第1ブロック個人種目選考会が開催予定で、ほふく救出の種目に2チームが出場予定です。結果については、次号でお知らせします。

引揚救助



引揚救助 標準所要タイム2分30秒

5人1組（救出される人〔※以下、要救助者〕を含む）で、2人の隊員が空気呼吸器を背負って、高さ7mの壁を降り、意識のない要救助者を搬送し、塔の上にいる残り2人の隊員によってロープで引揚げ、救出に向かった隊員も腕の力で登って脱出する訓練です。

チーム

鈴木敬士、梶徳、小林卓也、黒澤拓也、菊池紳吾

ほふく救出



ほふく救出 標準所要タイム1分10秒

3人1組（要救助者を含む）で、1人の隊員が空気呼吸器を背負って8mの煙道をくぐって反対にいる要救助者に接触して、要救助者と一緒に脱出する訓練です。

A チーム

菊池優介、菊池幸平、平根圭将

B チーム

阿久津正巧、岡山智久、鹿島拓人

ロープブリッジ救出



ロープブリッジ救出 標準所要タイム1分15秒

4人1組（要救助者を含む）で、水平に張られた20mのロープを渡り、要救助者をロープに吊り下げてけん引し、救出に向かった隊員も脱出する訓練です。

チーム

横山雄一、小関健幸、今野雄斗、後藤洋介